

発見!

# たからモノ ただみの文化遺産

第10回

## 華麗な医王寺の多宝小塔

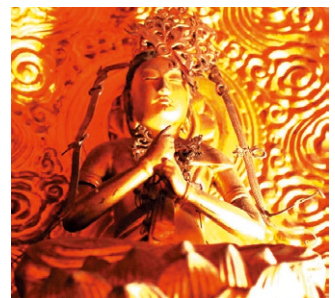
関東・東北で唯一 全国13例目か



▲医王寺 多宝小塔

河井継之助の墓所がある塩沢の真言宗医王寺には、江戸時代に製作された小型の多宝塔があります。多宝塔とは、二重塔で、一重が四角形、二重が円形の塔です。多宝塔は真言宗では建物そのものが大日如来を体現するといわれる大型の塔です。滋賀県石山寺の国宝多宝塔は17mで、塔内に快慶作大日如来坐像が安置されています。屋外にある多宝塔を、十分の一くらいに縮小して作られたのが、小型の多宝小塔です。堂内に安置された小さな建物です。これまで報告されている江戸時代以前の多宝小塔は、全国に12例で、ほとんどが近畿地方以西にあります。近代の移築例を除くと、最も東の多宝小塔が長野県にあります。医王寺多宝小塔は、詳しい専門的な調査は行われていませんが、全国13例目、関東・東北で唯一の報告例と考えられます。

医王寺多宝小塔（高さ約210cm、二重の屋根幅約100cm）を下から見てみましょう。黒い四角形の基壇に朱色の欄干がついています。一重の四角形の塔身は、四本の柱で三間が作られ、中央の扉の奥に金色の金剛界大日如来坐像が見えます。両側に金色の桐と藤の彫刻紋があります。



▲塔内の金剛界大日如来坐像

軒下のにぎやかな組物を見て下さい。中央に朱・緑・黒に色分けされて並んで

「山」字の形になっているのは、斗と肘木で、それが4段になっています（四手先）。4段目が丸桁（けた）を支え、4段にせり出した斗と肘木で屋根から上の重量を柱に伝えています。各段にゾウの鼻のように伸びたのは、出三斗の先端についた尾垂木で、装飾的で全体を華やかにしています。軒下は朱色で2段の二軒、垂木は平行に並ぶ和様の平行垂木です。それが広々として安定した屋根の形を作っています。黒い屋根は木製の瓦棒で丸瓦が表現されています。大型の多宝塔を、そのまま縮小したようなバランスのよい姿です。



▲二重軒下の組物

二重は円形の塔身で、朱色の柱で黒い手すりの欄干がまわり、扉奥に金色の菩薩立像が見えます。組物は一重と同様で、4段にせり出した四手先の斗と肘木、装飾的な尾垂木つき出三斗があり、段ごとに色分けされています。朱色の軒下は二軒で、垂木は放射状に配置された禅宗様の扇垂木です。屋根の四隅に宝珠、屋根上には相輪の九輪・水煙・竜車・宝珠が見えます。

全体に破損が少なく、華麗な造形を保っています。塔内には、五輪小塔が納入されています。天保13年（1842）に医王寺の住職有清が病消息災のために百基製作したものの一つです。江戸時代の医王寺は高

野山遍照光院の末寺で、田舎本寺の寺格でしたから、多宝小塔があるのでしょう。この製作年代は…、今後の調査にゆだねられています。指定文化財にふさわしい美術的文化遺産です。

文：久野俊彦  
写真：原永円香



## ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示情報

入館無料

### 第2回テーマ展「身につける民具」

会期：2024年2月6日(火)～2024年6月16日(日)  
場所：ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示ホール